

平成 30 年 2 月 15 日

霧島市教育委員会教育長 高田 肥文 様

霧島市学校給食運営審議会 会長 福永 浩幸

霧島市学校給食施設の今後の方向性について（答申）

平成 29 年 11 月 7 日付教総第 128 号で当審議会に諮問があった事項について、下記のとおり答申します。

記

1. 国分地区ウェット方式単独調理場の今後の方向性について

国分北小学校、国分小学校及び国分中学校の給食施設は、ウェット方式であり、かつ、青葉小学校も半ドライ方式であることや、いずれの施設も厨房機器等を含めた設備等の老朽化対策が喫緊の課題となっており、国が示した学校給食衛生管理基準に適合するドライ方式の給食施設に変更する必要があります。

また、それぞれの施設をドライ方式で建て替えるためには、現行より広い敷地面積を必要とするため、各学校の敷地内に建設しようとする、青葉小学校を除いて学校運営に支障をきたす可能性が高いという現実も確認しました。

したがいまして、青葉小学校敷地内又は配送対象校の校区内の新たな適地に集約した給食施設を新設し、同施設から前記した小中学校へ配送を行うことが適当と認めます。なお、国分地区南部学校給食センター及び隼人学校給食センターも含めて、配送対象校の組合せを柔軟に見直すことも検討してください。

2. 霧島市立学校給食センターの将来的な配置、運営計画について

霧島市北部に位置する 4 つの給食センターのうち、横川学校給食センター（S57 建設）及び牧園学校給食センター（S60 建設）は、ともに建設後 30 年以上が経過しているウェット方式の施設である上に、近年、厨房機器や給食配送車の老朽化対策が喫緊の課題となっています。

さらに、合併してから 12 年を経過し、少子化の進展による児童生徒数の減少に合わせて、霧島市北部地区の給食施設を適正に配置していく視点も必要です。

このようなことから、現在、北部地区に 4 つある給食センターを給食施設がドライ方式である溝辺と、半ドライ方式である霧島をドライ方式に改修したうえで 2 つの学校給食センターに統合し、北部地区の全ての小中学校へ配送することが適当と認めます。なお、学校の位置によっては、ほかの既存の給食センターからの配送も検討するなど、配送ルートや配送時間などを精査しながら柔軟に対応していくことも検討してください。

また、これらの実施にあたっては、アレルギー食対応や食育のさらなる推進のため、栄養士等の確実な配置に特段の配慮をされるよう強く求めておきます。